

第 197 回山梨大学医学会例会

日時：令和 4 年 10 月 26 日（水）午後 4 時 10 分～5 時 10 分

会場：管理棟 3 階大会議室

特任教授就任講演**性同一性障害の外科治療について**

百澤 明

山梨大学医学部形成外科

司会 平田 修司教授

【要旨】

演者は、2012 年 4 月に本学に赴任し、一般形成外科および、再建外科を中心に診療に当たってきた。一方で、埼玉医科大学総合医療センターに赴任した 2007 年より、性同一性障害の外科治療に関わりはじめた。この医療は、2012 年に山梨大学に赴任後も、多くのご協力のもと大きな問題なく山梨大学での性同一性障害の外科治療の実施にこぎ着けることができた。

2007 年 7 月、我が国での性同一性障害治療のパイオニアである埼玉医科大学形成外科原科孝雄先生の退職時に入れ替わりで、埼玉医科大学総合医療センター形成外科・美容外科に着任した。諸事情により一旦、性同一性障害の治療のすべてを中止したが、2008 年に乳房切除から再開し、2010 年には性別適合手術（MTFSRS）を再開した。

山梨大学赴任後の、FTM 男性に対する男性型胸郭形成を目的とした乳房切除術は、330 例、MTF 女性に対する性別適合手術は、80 例を超え、本邦の性同一性障害治療の総本山である岡山大学の症例数に迫っている。

現在は、治療活動のみでなく、本治療の受け皿を増やす活動にも注力している。今回は、演者が取り組んできた性同一性障害の外科治療について、お話したい。